

1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5340m付近のトラフに対応する低気圧が、千島の東を北北東進。
- ② 本州付近は、東北南部付近に中心を持つ高気圧に覆われているが、先島諸島付近は気圧の谷となり、高気圧の縁を回る下層暖湿気の影響で、強い雨を解析。
- ③ ①の低気圧の影響で、北海道地方では気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなっている所がある。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 19日は、1項①の千島の東の低気圧はカムチャツカ半島付近に進み、1項②の高気圧は、日本の東に中心を移す。500hPa 5280m付近のトラフに対応する低気圧がアムール川中流域付近に進み、温暖前線が沿海州付近にのびる。また、先島諸島付近の気圧の谷は、ほとんど停滞する。
- ② 20日は、朝までに沿海州付近で発生する低気圧が、オホーツク海に進み、寒冷前線が北日本にのびる。また、500hPa 5760m付近のトラフに対応して、朝までに東シナ海で発生する低気圧が、前線を伴い対馬海峡付近に進み、500hPa 5820m付近の正渦度極大域に対応して、朝までに先島諸島付近で発生する前線が、南西諸島付近を東北東進し、夜までに前線上に低気圧が発生する。
- ③ 21日は、2項②の寒冷前線はカムチャツカ半島付近に進む。対馬海峡付近の低気圧は、日本海を通過して千島近海に進み、この低気圧からのびる寒冷前線が本州付近を通過する。南西諸島付近の低気圧は、日本の南から日本の東に進み、夜までに本州付近を通過する前線と一体化する。また、華北付近の高気圧が東シナ海に張り出す。
- ④ 2項①～③の気圧の谷や低気圧及び前線に向かう下層暖湿気の影響で、南西諸島と北・西日本では21日にかけて、東日本では20～21日は、大気の状態が不安定となる所がある。落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。また、南西諸島では21日にかけて、西～北日本では20～21日は、雷を伴い強い雨や激しい雨が降り、大雨となる所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。
- ⑤ 2項①～③の低気圧や前線の周辺及び高気圧の南縁では気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなりしける所がある。北日本では21日にかけて、南西諸島と東～西日本では20～21日は、強風や高波に注意。
- ⑥ 20～21日は、2項②③の低気圧や前線に向かつて、850hPaで平年差+10～15℃の暖かい空気が流れ込み、2項④の降水の影響も加わり雪解けが進む。北～東日本の多雪地では、融雪やなだれに注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(06時から24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 波浪(明日まで)：北海道・東北3m。③ 高潮(明日まで)：大潮の時期、東日本では注意上基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。



主要じょう乱解説図